

事業計画書

①団体名	玉島陶・服部地域まちづくり協議会		
②テーマ区分	指定テーマ (8・9)		自由テーマ
③事業名	「ええとこ穂井田」農都交流ネットワーク推進事業	④これまで の採択回数	0回目
⑤現状及び 課題	<p>倉敷市玉島陶・服部地域は、古代から「穂井田（ほいだ）」と呼ばれ、現在、2地域を合わせて、面積1143.5ha、749世帯、総人口1,623人、山陽自動車道玉島ICから約5分にある「ほど良い田舎暮らし」のある地域である。農業振興地域として、米・野菜の栽培や桃・ブドウなどの果樹栽培、乳牛などの畜産などを地域の産業としている。しかし、農業の高齢化や後継者不足が進み、耕作放棄地が広がっている状況である。</p> <p>このような状況に対して、「農」ある暮らし、地域の良さをアピールし、生産現場と消費者（特に都市部）の相互理解を深め、「農」をライフスタイルに組み入れる暮らしを提案し、ひいては移住定住を促進するような仕組みづくりが課題となっている。</p>		
⑥事業内容	<p>近年、農村部と都市部の交流を促進する仕組みの一つとして、「市民農園整備促進法」(H2年制定)による「市民農園」が有効な仕組みとして、注目されている。県内でも岡山市北区の「牧山ラインガルテン」など農都連携型の市民農園が開設されている。</p> <p>本事業では、「市民農園づくり」を農都連携による農村地域活性化の方法として、穂井田地域と同様に耕作放棄地や農業後継者不足に悩む備中地域の農村部と連携・情報共有し、その方法の確立と農都交流のネットワークを構築し、移住定住を促進する仕組みづくりを確立することを目的とする。</p> <p>この目的を実現するために、今年度は次のような事業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県民局が取り組んでいる「人・農地プランの実質化及び農地中間管理事業推進に係る推進モデル」との連携 <ol style="list-style-type: none"> ① 移住者の希望に合わせて紹介できるように、下記の3タイプに分けて調査をする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新規就農者に提供できる農地 2) 市民農園として提供できる農地 3) 家庭菜園として提供できる農地 ② 備中地域の農業法人やNPOなど組織的に、地域農業に取り組んでいる事業者の共通の課題となっている「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」等について、意見交換し、「顔」の見える関係づくり、ネットワークづくりを行う。このことによって、「穂井田」から「備中」という地域のまとまりを意識しながら、今後の展開を構想する。 2. 備中地域への移住定住の促進 <ol style="list-style-type: none"> ① 県が主催する、都会での移住定住相談会に備中地域として参加をする 		

- ② 「農」ある暮らしと、備中地域の良さをアピールして、移住定住につなげる。

3. 試験的市民農園（体験農園・レンタル農園）づくり

- ① 倉敷市農業委員会と協議して、穂井田地域の耕作放棄地の中で法律・制度に則った市民農園の適地を選定し、試験的な市民農園づくりの計画を立て実施する。またそのプロセスをまとめる。
- ② レンタル農園（ $4\text{ m} \times 5\text{ m} = 20\text{ m}^2$ ）10区画を整備し、5月に貸し出しをする。植え方、育て方については地域の経験豊富なお年寄りに依頼をする。
- ③ 体験農園では、作物栽培が楽しく継続できる作物や市場性の高い作物を検討する。都市住民の方々に農業の楽しさとともに作物の美味しさを感じてもらい、「体験農園」への参加を頂けるようにする。

4. 体験農園でのワークショップの企画実施

- ① 「農」ある暮らしをしている地域の方々との交流の時間や農家の暮らしぶりを知ってもらうための地域散策などを行う。（7月下旬から8月初旬）
- ② 都市部在住の親子を対象として、体験農園での作付（8月下旬）及び収穫（11月中旬）の農業体験を行う。
- ③ 体験終了後は、地域住民と備中地域の食材を活用した「食」の交流イベントを企画実施し、「農」ある暮らしを共有する。
- ④ ワークショップ参加者に対して、次年度以降の市民農園の利用需要に関するアンケート調査を行い、その分析結果から穂井田地域での市民農園の方向を決定する。

5. 市民農園先進地域への視察と市民農園指定計画の作成

- ① 試験的な市民農園の実施結果及び備中地域農村ネットワークメンバーとの検討を踏まえて、市民農園の先進地域へ20～30人程度の視察を行う。視察は、市民農園型の農都連携の先進地域2カ所を予定しているが、将来的には、「農泊」「農家レストラン」などの展開も検討しており、出来るだけ多機能に運営している地域や事業体を選定して視察する計画である。
- ② 視察での成果を参考として、市民農園指定計画と備中地域農村ネットワーク構築構想をまとめる。
- ③ 次年度以降の運営形態・組織体制、都市住民の方々に魅力のある内容を検討し、次年度は、本格的な「市民農園」（体験農園・レンタル農園）の開園を計画する。

- 6. 穂井田市民農園PRのための広報媒体の制作。既存HPへの広報ページの追加制作、チラシ等の製作を行い、倉敷市、岡山市などを中心に近隣地域へのPRを行う。

	<p>7. 持続可能な地域にするための様々な施策に関するシンポジウム開催</p> <p>① 備中地域の都市住民、農村地域住民を対象として、本事業に取り組む備中地域の農業関係者、農村地域活性化や農都連携に関する知見者を講師に招いてのシンポジウムを1回開催する。</p> <p>② 地域を維持するための収益モデルの考察</p> <p>③ 県民局が推進している「農地の集積・集約化」の今後の取り組みと課題</p> <p>④ 「穂井田」が、「農都連携」「移住定住」の玄関に成り得るのか</p>
<p>⑦事業目的 (目指す直接の結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地や農業後継者不足に悩む備中地域の農家と「顔」の見える関係をつくり、備中地域内でのネットワークをつくり、移住定住を促進する仕組みづくりを確立する。 ・都市住民（特に子育て世代）に対して、「農」ある暮らしを体験して頂き、「市民農園」という農都交流の仕組みが有効に機能するような仕組みづくりとその検証。次年度の「市民農園」開設につなげられるように協議会を中心に地域全体で協議し結論を出すこと。 ・穂井田地域における「市民農園」開園が、地域を活性化する仕組みとして有効と判断した場合、地域における組織・運営形態をどのようにするかを検討し、決定する。次年度開園のための計画を作成する。
<p>⑧今年度期待される成果 (短期アウトカム) その活動で得られる利益や変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民局が取り組んでいる推進モデルと連携しておこなう、先進事業となるので、県民局がおこなう研修会等で事例報告をおこなう。 ・行政単位でなく、備中地域としての移住定住促進を図る仕組みができる。 ・近隣の都市住民の方々に、穂井田地域の「農」ある暮らし、ほどよい田舎暮らしの魅力を体験して頂き、アンケート調査を実施し、「農」ある暮らしがどの位、魅力的に感じられるかの検証。 ・持続可能な地域における組織・運営形態が決定され、ビジョン及び事業計画の立案する。 ・備中地域の組織運営をしている農家との「顔」ネットワークを作る第一歩となる。
<p>⑨将来的に期待される成果 (中・長期アウトカム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民局が推進しているモデルのパイロット事業となり、より一層「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」が進み、新規就農者が増える。 ・穂井田地区は、山陽自動車道玉島ICから約5分に位置する、都市部に隣接した農村部「ほど良い田舎」である。その魅力を都市住民が理解し「市民農園」を通じて、都市生活と田舎暮らしの両方を体験する中で穂井田地域を玄関として、構築されたネットワークで、備中地域の農村部への移住定住が促進されること。

<p>⑩翌年度以降の事業展開の予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県民局が推進しているモデルの推進モデル地域となる 2. 県が主催する、都会での移住定住相談会への積極的な参加 3. 備中地域の農業者、その関係者と連携しての地域特産品のブランド化や6次化・農産物の共同販売などのネットワークの構築 4. 「市民農園」開園のための計画書づくり及び調整 5. 「市民農園」開園
<p>⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当協議会は、平成29年度から令和元年度まで「倉敷市市民企画提案事業」に採択され、玉島陶・服部地区のまちづくり計画を策定する中で地域住民アンケート調査を行い、その結果から「どのような地域づくりをするのか」を十分に検討し、住民合意を基に地域づくりを進めてきた。 ・都市部に隣接した穂井田地域を玄関として、備中地域の農業法人、NPOなど組織的な取り組みを行っている農家と「顔」の見える関係づくりを行い、「農地の集積・集約化等による農地の有効活用」、「地域特産品づくり」「移住定住相談会への参加」等を通じて、備中地域農村部とのネットワークをつくり、「農都連携」を活性化するモデルとしたい。
<p>⑫想定される役割分担</p>	<p>【団体】 本事業の企画実施、アンケートによる検証、備中地域の農業関係者のネットワーク化、次年度以降の計画作成</p> <p>【県民局】 本事業の広報、事業実施過程における助言、事業の評価</p> <p>【その他】 農業委員会、倉敷市農林水産課、JA、備中地域の法人、農業関係NPO、くらしき作陽大学、他大学、穂井田地区モモ部会、NPO法人みんなの集落研究所、備中地域おこし協力隊員等</p> <p>【理由・期待できる相乗効果】 農業振興地域である穂井田地区(玉島陶・服部地域)は、人口が集積している倉敷市市街地と隣接しており、他の備中地域の農村部へと交流人口をつなぐ玄関となりうると考えているから。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑥事業内容」欄は、それぞれの活動について課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 継続事業は「⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄に昨年度までの採択事業の主な実績・成果も記載してください。
- 4 「⑫想定される役割分担」欄は、協働協定書等に基づき提案団体及び備中県民局、その他の役割を記入してください。